

リーダーの

横顔

玉野商工会議所 会頭
株式会社アール・ケア
代表取締役

山根 一人



日本商工会議所のビジネス情報誌『月刊石垣』2021年6月号に登場した、玉野商工会議所の山根一人会頭を紹介する。

自社事業を再定義する

なく、社会環境の変化「社だ」と言い切っただけで、社会環境の変化に伴う企業経営の対応(マーケティング)が喫緊の課題となっただけで、顧客が何を望んで同業他社の中から自社を選んでくれているのか。そして、顧客も

「わが社はエンターテインメント会社だ」と定義し、テレビの普及でアニメを、そしてテーマパークにも進出した会社がありました。この会社のトップが、ウォルト・ディズニーズから、自社事業を再定義を行い、存続と発展を目指して進まなければなりません。



玉野商工会館
重要施設として、玉野市宇野港(重慶湾)に面した玉野市宇野商工会館(あさせん)や補助金・助成金の受け付け、経営相談や申請手続きの窓口としてだけでなく、

岡山県の最も南に位置する玉野市。30年前までは、玉野市は本州と四国(高松市)を結ぶ宇高国道フェリーの四国への玄関口として栄え、また三井造船企業城下町として3分の1が造船関連世帯の1が造船関連世帯



「わが社は鉄道会社だ」と言い切りました。当時、顧客ニーズから、自社事業を再定義する。さて、これまで玉野を支援してくれた造船業は、造船を国策とする中国・韓国勢に苦戦を強いられる中、地場を支える中小企業こそが、自社事業の再定義を行い、存続と発展を目指して進まなければなりません。

「月刊石垣」2021年6月号より転載